



有田誠(ありたまこと)京丹波町在住の映画愛好家。写真は1977年の朴正熙第9代大統領就任時のソウル世宗路。奥に李舜臣像、朝鮮総督府が見える(筆者撮影)

一九五二年の元旦生まれだから、七四歳になつたばかりである。筆者はひと月遅れの生まれ。折にふれ、安と自分の生きた時代を照らし合わせ

とり、その自覚すら失つた。朝鮮半島は、三十五年間の日本の支配が破綻すると、米ソの代理戦争の場となつた。その犠牲と朝鮮戦争の軍需景気で、日本の経済成長は始まった。この不条理な条件下に、安聖基の成長期はあつた。筆者には、東映のチャンバラ映画や東宝の怪獣映画を見ながら、のどかで、能天気な日々であつた。

高三のときは、図書館で暮しているほど勉強したらしい。筆者と同じく七〇年に、韓国外国語大学ベトナム語科に入学、朴正熙の軍事独裁時代である。日本は、海も川も大気も大汚染されていた。光化学スモッグの警報で、屋内待機が何度もあつた。

に渡つた。ソウルの米国大使館には、ビザ申請の長蛇の列ができた。NW航空は、「移民者の運賃二十五%引き」の広告を出していた。朝鮮戦争からその休戦後にかけて、韓国から米国への移民は一万五千人以上いた。七〇年代以降は万単位の移民となつた。

追悼安聖基

韓国の大スター安聖基が、この一月五日に亡くなった。



安聖基(アン・ソンギ 1952~2026)

安は朝鮮戦争下、南の馬山まで家族で逃げる途中、母が大邱で産気づき、生まれ。その年、日本は、サンフランシスコ講和条約で、独立新生国家となつた。実体は、今に至るまで米国の植民地支配下にある。多くの国民は、「親米」でヘラヘラと卑屈な態度を

安の父、華榮は江陵の出身。ソウル大で演劇を一緒にやって金綺泳とともに、俳優として映画界にいた。その金監督の撮影現場に連れて来られた五歳の安聖基は、即子役として採用される。一九六八年まで、五十本以上に出演した。

七三年までに延べ二万人の韓国兵がベトナムに送られた。死者は五千人。こうした米軍への弾除け「貢献」の見返りに、七〇年代の韓国人は、米国に移住した。一九七〇年から八四年にしばらく、約四十万人が米国

安聖基は、一九七七年に映画界に復帰する。この時代を描いた彼の主演作を二本紹介する。一本は『デーブ・ブルー・ナイト』(八四年ベ・チャンホ監督。米国の永住権(グリーンカード)を持つグレゴリー・バク(安聖基)が主人公。彼に大金を払って永住権を得るために偽装結婚する女との話し。米国でオールロケし、大ヒットした。

ン監督。韓国がベトナム戦争に加担したことに苦しむ男を演じた。この作品の頃、ユニセフの親善大使として、後援者たちに、ベトナムの子どもへの支援を要請する手紙を何度も書いていた。

朴正熙の時代

一九六一年五月、朴正熙(二九一七)が軍事クーデターを起こす。軍に復帰するという約束を破り、二年後、大統領選挙に出て、当選する。権力維持のため改憲を繰り返して、第五代か

ら九代までの大統領として恐怖の独裁政治を行った。満洲軍官学校を最優秀で卒業、日本名を高木正雄と言つた。戒厳令を布き、一九六五年、日韓条約を締結する。有償無償の五億ドルの経済援助を確保、これでソウルの地下鉄一号線、京釜高速道路、浦項製鉄所が建設された。自民党政権と朴の間に汚い金が行き交つた時代である。ソウルの地下鉄車両には、三菱のマークが付

いていた。日韓条約が強引に結ばれた影響は、今も徴用工の日本企業に対する賠償問題としてつづいている。一九七二年宣布の「維新体制」で、大統領は任期を定めない間接選挙にする。国会

議員の三分の一を自分で指名、軽犯罪処罰法の適応範囲を広げ、片っぱしから市民、学生を連行した。夕方六時には、愛国歌(国家)が流れる。人々は路上で立ち止まり、国旗に向かって、右手を胸に当て、敬礼を強制された。一つの時代でも国家を喰い物にする輩に限って、愛国心を強要する。すでに十八世紀、英国のジョンソン博士の指摘した通りである。映画館でも上映前に全員

た。国務総理の崔圭夏が八か月、大統領を務めるが、全斗煥が軍事クーデターを起こし、一九八〇年から八七年まで大統領となる。光州事件で、のちに死刑判決、特別赦免で釈放された。この長い軍事独裁時代に材を取った映画は多数ある。五本だけ、タイトルをあげておく。『KCIA南山の部長たち』(二〇二〇)『弁護人』(二〇一三)『タクシー運転手』(二〇一七)『一九八七ある闘いの真実』(二〇一七)『ソウルの春』(二〇二四)いづれも娯楽映画として一級品である。

朴正熙の娘で第十八代大統領、弾劾され懲役で四年間服役。親友のチェ・スンシルによる国政干渉で、国会で弾劾が可決され、最高裁の決定により罷免された。チェ・スンシルの父親チェ・テミンは宗教団体の教祖だった。朴正熙は娘がその教祖と親密な関係にあることを心配し、生前、金載圭に調査させている。即ちチェ・テミンを排除すべきの報告を朴正熙はきかなかつた。チェ・スンシルの件は日本でも報道されたが、新興宗教の部分は伏せられていた。安倍晋三元首相が、統一教会がらみで射殺されるのは、その後のことである。



1961年軍事クーデター時の朴正熙(中央)

一九七九年、朴はKCIAの金載圭部長に暗殺された。

安聖基は、一九七七年に映画界に復帰する。この時代を描いた彼の主演作を二本紹介する。一本は『デーブ・ブルー・ナイト』(八四年ベ・チャンホ監督。米国の永住権(グリーンカード)を持つグレゴリー・バク(安聖基)が主人公。彼に大金を払って永住権を得るために偽装結婚する女との話し。米国でオールロケし、大ヒットした。

もう一本は、『ホワイト・バッジ』(九二年ジョン・ジョ

安聖基ら何十人も映画人が、朴権恵のブラックリストに載っていた。

朴権恵の黒いリスト

朴権恵も筆者と同じ年の生まれだが、安聖基のように感情移入はできない。

安聖基ら何十人も映画人が、朴権恵のブラックリストに載っていた。